

## 第55回 全国トラックドライバー・コンテスト

## 学科競技

## 問題用紙

(競技時間：60分間)

部門 4トン・11トン・トレーラ・女性

氏名

## 注意事項

- ① 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。  
受験番号は「『部門コード』 - 『ゼッケン番号 (2桁 (例：青森県 = 02))』」となる。

部門	部門コード
4トン部門	B
11トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例) トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T - 02」となる。

- ② 解答はすべて別紙の解答用紙 (マークシート方式) に記入すること。
- ③ 解答用紙 (マークシート方式) は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムでしっかりと消すこと。
- ④ この問題用紙は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退室してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退室すること。一度退室したら再度入室は認めない。
- ⑧ 時間については、試験終了10分前と5分前に終了の予告をする。
- ⑨ 落とした筆記用具の拾得等、試験時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。

# I 法規 (40 問)

## 【4 肢択一式問題】

問 1. 速度に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 道路標識等により速度が指定されていない自動車専用道路における大型貨物自動車の最高速度は、60 キロメートル毎時である。
- イ 道路標識等により速度が指定されていない一般道路における自動車の最高速度は、自動車の種別にかかわらず 60 キロメートル毎時である。
- ウ 道路標識等により速度が指定されていない高速自動車国道における最大積載重量 4,000 キログラムの貨物自動車の最高速度は 80 キロメートル毎時である。
- エ 高速自動車国道において、本線車線が道路の構造上往復の方向別に分離されていない区間で道路標識等により速度が指定されていない場合の最高速度は、自動車の種別にかかわらず 80 キロメートル毎時である。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 2. 次のア～エのうち、運転者が一時停止又は徐行して、その通行又は歩行を妨げないようにすることと定められているのはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 身体障害者用の車椅子が通行しているとき。
- イ 目が見えない者が政令で定めるつえを携えて通行しているとき。
- ウ 監護者が付き添わない児童若しくは幼児が歩行しているとき。
- エ 高齢の歩行者が通行しているとき。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問3. 信号機に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 対面する信号機が黄色の場合は、停止位置に近づいていて安全に停止できない場合を除いて、停止位置で停止しなければならない。
- イ 対面する信号機が黄色の点滅信号の場合は、車両は停止位置で一時停止しなければならないが、歩行者は他の交通に注意して進行することができる。
- ウ 対面する信号機が青色の場合、自動車は直進、左折、右折ができる。
- エ 対面する警察官又は交通巡視員が腕を水平に上げているときは、赤信号と同じである。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問4. 交差点の右左折に関する次のア～エの記述のうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 自動車は、右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の中央に寄り、かつ、交差点の中心の直近の内側（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分）を徐行しなければならない。
- イ 自動車は、一方通行路から右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の右側端に寄り、かつ、交差点の中心の内側（道路標識等により通行すべき部分が指定されているときは、その指定された部分）を徐行しなければならない。
- ウ 左折するときは内輪差が生じるため、できる限り道路の左側端との間隔を空けて徐行しなければならない。
- エ 「左折可」の標示板のある交差点では、対面する信号機の信号が赤色や黄色の場合でも左折することができる。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

## 【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問5. 信号機のある踏切で、青信号の場合は、一時停止や安全確認をせずに踏切に進入することができる。
- 問6. 交通整理の行なわれていない交差点に入ろうとする場合、交差道路が優先道路であるときは、一時停止しなければならない。
- 問7. 他の車両等の通行を妨害する目的で、高速自動車国道における最低速度の規定に違反するような行為をし、交通の危険を生じさせるおそれがある場合は「妨害運転罪」の適用対象となる。
- 問8. 高速自動車国道等で自動車を運転しようとするときは、あらかじめ、燃料、冷却水もしくは原動機のオイルの量又は貨物の積載の状態を点検しなければならない。
- 問9. 交差点又はその附近において、緊急自動車が接近してきたときは、ただちにその場で一時停止しなければならない。
- 問10. 自動車は歩道の通行は禁止されているが、自転車道の場合は自転車に注意しながら通行することができる。
- 問11. この標識のある道路は、最大積載量が5.5トンを超える車は通行できない。

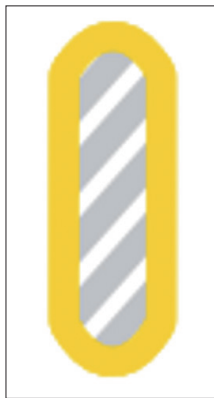


問 12. 車両等の運転者は、法令の規定により警音器を鳴らさなければならないこととされている場合を除き、警音器を鳴らしてはならない。

問 13. 車両は、歩行者又は他の車両等の正常な交通を妨害するおそれがあるときは、道路外の施設等への出入りのための左折や右折をしたり、横断や転回、後退をしてはならない。

問 14. 警察官は、整備不良車両に該当すると認められる車両が運転されているときは、車両を停止させ車両の装置について検査をすることができる。

問 15. この道路標示は、「安全地帯」であることを示している。



問 16. 大型免許、中型免許、準中型免許に係る適性試験での視力の合格基準は、両眼で0.8以上、かつ、一眼でそれぞれ0.4以上である。

問 17. 車両の故障による継続的な停止は、やむを得ないので駐車とはならない。

問 18. 路線バス等の優先通行帯に指定されている通行帯は、路線バス等以外の車両は通行することができない。

問 19. 免許（仮免許を除く。）を受けた者が、アルコール、麻薬、大麻、あへん又は覚醒剤の中毒者であることが判明したときは、その者の住所地を管轄する公安委員会は、その者の免許を取り消し、又は六月を超えない範囲内で期間を定めて免許の効力を停止することができる。

問 20. 正当な理由がないのに、著しく他人に迷惑を及ぼすこととなる騒音を生じさせるような方法で、急発進や急加速をしない。

問 21. 放置車両とは、違法駐車と認められる場合における車両（軽車両にあつては、「重被牽引車」に限る。）であつて、その運転者がこれを離れて直ちに運転することができない状態にあるものをいう。

問 22. 車両総重量 8,000 キログラムの自動車は、道路交通法では大型自動車に分類される。

問 23. この標識は、「路面凹凸あり」を示している。



問 24. 運転免許の効力停止処分中に運転すると、無免許運転となる。

問 25. 何人も、酒気を帯びて車両等を運転することとなるおそれがある者に対し、酒類を提供し、又は飲酒をすすめてはならない。

問 26. 車両（乗合自動車及びトロリーバスを除く。）は、他の車両に追い越されるときは、追越しが終わるまで速度を増してはならない。

問 27. 車間距離不保持の違反については、一般道路と高速自動車国道では点数及び反則金の額が異なっており、いずれも一般道路における違反のほうが高い。

問 28. 車両の運転者は、後退するときも、手、方向指示器又は灯火により合図をしなければならない。

問 29. 高速自動車国道等では駐車や停車が禁止されているが、故障や燃料切れなどやむを得ない場合は、十分な幅員がある路肩や路側帯に駐停車することができる。

- 問 30. 車両等は、横断歩道又は自転車横断帯を横断し、又は横断しようとする歩行者や自転車があるときは、徐行して進行しなければならない。
- 問 31. トンネル内は、車両通行帯がある場合でも追越しは禁止されている。
- 問 32. 進路変更等をするために方向指示器等による合図を出したときは、それらの行為が終わるまで、合図を継続しなければならない。
- 問 33. 高速自動車国道や自動車専用道路では、ロープ等による故障車の牽引はできない。
- 問 34. 高速自動車国道の路線バスの停留所は、路線バスの運行終了後であれば路線バス以外の自動車も駐停車することができる。
- 問 35. 車両等の運転者が過労等により正常な運転ができない状態で運転するおそれがあるときは、警察官は、正常な運転ができる状態になるまで運転をしてはならない旨を指示するなど、道路における交通の危険を防止するため必要な応急の措置をとることができる。
- 問 36. 進行妨害とは、車両等が、進行を継続し、又は始めた場合においては危険を防止するため他の車両等がその速度又は方向を急に変更しなければならないこととなるおそれがあるときに、その進行を継続し、又は始めることをいう。
- 問 37. 交差点の側端から 10 メートル以内の部分には駐停車禁止である。
- 問 38. 自動車（緊急自動車を除く。）は、高速自動車国道の本線車道に入ろうとする場合において、当該本線車道を通行する自動車があるときは、その自動車の進行妨害をしてはならない。
- 問 39. 進行中の車両等から道路にペットボトルなどを投げるのは迷惑行為ではあるが違法行為ではない。
- 問 40. 交通事故が発生した場合、運転者には負傷者を救護する等の必要な措置を講じる義務があるが、運転者以外の乗務員にはそのような義務はない。

## Ⅱ 構造機能 (20 問)

### 【4 肢択一式問題】

問 41. セミトレーラ以外の自動車の車両総重量に関する次の記述のうち、誤っているものを 1 つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1 最遠軸距が 5.5 メートル未満の自動車の車両総重量は、20 トンを超えてはならない。
- 2 最遠軸距が 5.5 メートル以上 7 メートル未満で、長さが 9 メートル以上の自動車の車両総重量は、22 トンを超えてはならない。
- 3 最遠軸距が 7 メートル以上の自動車で、長さが 9 メートル未満の自動車の車両総重量は、20 トンを超えてはならない。
- 4 最遠軸距が 7 メートル以上の自動車で、長さが 9 メートル以上 11 メートル未満の自動車の車両総重量は、25 トンを超えてはならない。

問 42. 事業用貨物自動車の日常点検の内容に関する次のア～エのうち、誤っているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 自動車運送事業の用に供する自動車のうち、車両総重量 8 トン未満の自動車の日常点検は、毎回ではなく、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に実施すればよい。
- イ やむを得ない事情により、運行前の日常点検が実施できない場合は、運行終了後に実施することで足りる。
- ウ タイヤに異状な摩耗がないかどうかの点検は、毎回実施しなければならない。
- エ ブレーキの液量点検は、毎回でなく、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に実施すればよい。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ



問 43. 停止表示器材に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1 停止表示器材は、路面上に垂直に設置できるものであること。
- 2 停止表示器材による反射光の色は、赤色であり、かつ、当該停止表示器材による蛍光の色は、赤色又は橙色であること。
- 3 停止表示器材は、昼間 100 メートルの距離からその蛍光を確認できるものであること。
- 4 停止表示器材は、夜間 200 メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。

問 44. タイヤ交換作業時の注意点に関する次のア～エのうち、適切なものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア ディスク・ホイールに適合したホイール・ボルトを使用する。
- イ ホイール・ボルトやナットを点検し、必要に応じて交換する。
- ウ ホイール・ボルトのねじ部、ホイール・ナットのねじ部、ディスク・ホイールを清掃する。
- エ 締め付けは、スパナを使用して、ホイール・ナットを確実に締め付ける。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

【○×正誤式問題】

次の問 45 から問 60 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

問 45. 貨物の運送の用に供する普通自動車のうち車両総重量が 8 トン未満の自動車については、巻込防止装置を備えなくてもよい。

問 46. 自動車には、定期点検記録簿の写しを備え置かなければならない。

問 47. すべての非常点滅表示灯は、同時に作動する構造であること。

問 48. 自動車運送事業の用に供する車両総重量 8 トン以上の自動車は 3 月ごと、車両総重量 8 トン未満の自動車は 6 月ごとに、国土交通省令で定める技術上の基準により自動車を点検しなければならない。

問 49. 非常信号用具は、夜間 100 メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものであること。

問 50. 「空車状態」とは、道路運送車両が、原動機及び燃料装置に燃料、潤滑油、冷却水等の全量を搭載し及び当該車両の目的とする用途に必要な固定的な設備を設ける等運行に必要な装備をした状態をいう。

問 51. 車幅灯は、夜間にその前方 200 メートルの距離から点灯を確認できるものであること。

問 52. 「輪荷重」とは、自動車のすべての車輪を通じて路面に加わる鉛直荷重をいう。

問 53. 道路運送車両法でいう「普通自動車」とは、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車以外の自動車をいう。

問 54. 方向指示器は、毎分 60 回以上 120 回以下の一定の周期で点滅するものであること。

- 問 55. 事業用貨物自動車の3か月ごとの定期点検では、ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩みを点検しなければならない。
- 問 56. 警音器の警報音発生装置は、運転者が運転者席において、その音の大きさ又は音色を容易に変化させることができるものでなければならない。
- 問 57. 後退灯の灯光の色は、橙色であること。
- 問 58. 「最遠軸距」とは、自動車の最前部の車軸中心（セミトレーラにあっては、連結装置中心）から最後部の車軸中心までの水平距離をいう。
- 問 59. 前回の運行で異状が認められなかった箇所については、次回の運行前の日常点検で省略することができる。
- 問 60. 自動車の排気管は、発散する排気ガス等により自動車登録番号標又は車両番号標の数字等の表示を妨げる位置に開口していないこと。

### Ⅲ 運転常識 (20 問)

#### 【4 肢択一式問題】

問 61. 次のア～エの気象状況のうち、国土交通省の「異常気象時における措置の目安」において、「輸送することは適切ではない」とされているものはいくつあるか。 解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 1 時間の雨量が 30 ～ 50 ミリのとき。
- イ 風速が秒速 30 メートル以上のとき。
- ウ 大雪注意報が発表されているとき。
- エ 視界が概ね 20 メートル以下であるとき。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 62. 次のア～エの行為のうち、危険運転致死傷罪の適用対象となる行為はいくつあるか。 解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア アルコール又は薬物の影響により正常な運転が困難な状態で自動車を走行させる行為。
- イ 人又は車の通行を妨害する目的で、走行中の自動車の直前に進入し、その他通行中の人又は車に著しく接近し、かつ、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する行為。
- ウ 高速自動車国道又は自動車専用道路において、自動車の通行を妨害する目的で、走行中の自動車の前方で停止し、その他これに著しく接近することとなる方法で自動車を運転することにより、走行中の自動車に停止又は徐行をさせる行為。
- エ 赤色信号又はこれに相当する信号を殊更に無視し、かつ、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する行為。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 63. 夜間の走行に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 夜間は自車と対向車のライトで、道路の中央付近の歩行者が見えなくなることがある。
- イ 見通しの悪い交差点やカーブなどの手前では、前照灯を下向きにするのがよい。
- ウ 対向車のライトがまぶしいときは、視点をやや左前方に移して目がくらまないようにする。
- エ 前の車に続いて走るときは、その車のブレーキ灯に注意する。

- 1 一つ
- 2 二つ
- 3 三つ
- 4 四つ

問 64. 貨物自動車運転者の月曜日と火曜日の勤務が下記の場合、月曜日の拘束時間は何時間となるか。正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

月曜日 始業 8：00～終業 21：00

火曜日 始業 6：00～終業 20：00

- 1 13時間
- 2 14時間
- 3 15時間
- 4 16時間

## 【○×正誤式問題】

次の問 65 から問 80 までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 65. 雪道の運転ではハンドルを取られるため、できるだけ車の通った跡を避けて走るようにする。
- 問 66. タイヤの空気圧が不足している場合、高速走行時にはスタンディングウェーブ現象が発生しやすくなる。
- 問 67. 交通事故が起きたときは、事故の続発を防ぐため、他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を止め、エンジンを切る。
- 問 68. 制動距離、遠心力、衝撃力などは、いずれも速度の 2 倍に比例して大きくなる。
- 問 69. 自動車損害賠償保障法は、人身事故にも物損事故にも適用される。
- 問 70. アルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認ができれば、目視等による確認は省略することができる。
- 問 71. 運転者は、疾病、疲労、睡眠不足その他の理由により安全な運転をすることができないおそれがあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出ること。
- 問 72. 事業用自動車に貨物を積載するときは、偏荷重が生じないように積載すること。
- 問 73. 車両総重量 8 トン以上または最大積載量 5 トン以上の事業用自動車に乗務した運転者は、荷主の都合により集貨又は配達を行った地点で待機した場合であって、その時間が 60 分未満の場合は、乗務の記録を省略できる。
- 問 74. 高速道路上で故障等により運転することができなくなったとき、必要な危険防止措置をとった後は、車外に出るのは危険なので、車内にとどまって救援を待つ。
- 問 75. 上り坂で前の車に続いて停車するときは、あまり接近し過ぎないようにする。

- 問 76.** 大地震が発生したときは、いかなる場合でも、避難のために車を使用しないこと。
- 問 77.** 休息期間を分割する場合は、1日において1回あたり継続4時間以上、合計が8時間以上でなければならない。
- 問 78.** 交差点を通行するときは、自転車の運転者が自動車の存在を認識しているかどうか確認しながら通行する。
- 問 79.** 運転者が勤務の途中でフェリーに乗船する場合、フェリー乗船時間は原則として休息期間として取り扱う。
- 問 80.** 高速道路で、誤って本線車道などに進入し、反対方向から進行してくる車や、歩行者がいることがあるので、道路情報板などの情報に注意して走行する。

# 第55回 全国トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

(公社)全日本トラック協会

## I. 法規

問	選択肢			
	1	2	3	4
1		2		
2				4
3	1			
4	1			

問	○	×
5		×
6		×
7	○	
8	○	
9		×
10		×
11		×
12		×
13	○	
14	○	
15		×
16		×
17		×
18		×
19	○	
20	○	

問	○	×
21	○	
22		×
23	○	
24	○	
25	○	
26	○	
27		×
28	○	
29	○	
30		×
31		×
32	○	
33		×
34		×
35	○	
36	○	

問	○	×
37		×
38	○	
39		×
40		×

## II. 構造機能

問	選択肢			
	1	2	3	4
41				4
42			3	
43			3	
44			3	

問	○	×
45		×
46		×
47	○	
48		×
49		×
50	○	
51		×
52		×
53	○	
54	○	
55	○	
56		×
57		×
58	○	
59		×
60	○	

## III. 運転常識

問	選択肢			
	1	2	3	4
61	1			
62				4
63			3	
64			3	

問	○	×
65		×
66	○	
67	○	
68		×
69		×
70		×
71	○	
72	○	
73		×
74		×
75	○	
76		×
77		×
78	○	
79	○	
80	○	